令和6年度 萬鉄五郎記念美術館運営委員会会議録

1 開催日時

令和7年3月18日（火） 午後2時～午後4時

2 開催場所

花巻市東和総合支所第1会議室

3 出席者

(1) 出席委員9名

佐々木秀次会長、門馬優子会長職務代理者、小笠原卓雄委員、斎藤純委員、
菅沼緑委員、菊池房江委員、杉本吉武委員、牧野幹委員、菊池忠久委員

(2) 欠席委員1名 岩角聖孝委員

(3) 事務局6名（萬鉄五郎記念美術館）

菅野圭生涯学習部長、平澤広館長、梅原奈美生涯学習課長、小原千晴副館長、
高橋峻主事（学芸員）、小原美有学芸員

4 会議内容

事務局（梅原生涯学習課長）

予定の時間より少し早いですが、皆さんお揃いになったようですので、始めさせていただきます。本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。ただいまから萬鉄五郎記念美術館運営委員会を開会いたします。申し遅れましたが、本日の進行を務めさせていただきます生涯学習課長の梅原と申します。よろしくお願いいたします。

議事に入ります前に、本運営委員会は、萬鉄五郎記念美術館管理運営規則第9条第2項の規定により、委員の半数以上の出席により成立するとされておりますが、本日は9名出席されておりますことから、半数以上のご出席をいただいております、会議が成立

していることをご報告申し上げます。また、佐々木会長ですが、現在も言語のリハビリに通院していらっしゃいますので、今日の進行は会長職務代理でございます、門馬優子会長職務代理にお願いしたいと思っております。よろしく申し上げます。では、以降次第に沿って進めさせていただきます。それでは、生涯学習部、菅野部長よりご挨拶を申し上げます。

事務局（菅野部長）

生涯学習部長の菅野と申します。どうぞよろしく申し上げます。委員の皆様にはお忙しい中、萬鉄五郎記念美術館運営委員会にご出席いただきまして大変ありがとうございます。また日頃より、館の管理運営にご支援ご協力いただきまして大変ありがとうございます。萬鉄五郎記念美術館も昭和59年開館ということで40年経過しております今年度は空調設備の工事を完了させましたし、来年度は照明の改修を予定しているという状況で、老朽化に伴っていろいろ予算の範囲で対応しているところでございます。運営ですが、担当の方では、やはり幅広い人たちに入館していただくようにということで、毎年いろいろ工夫して企画展等考えて予算の中で頑張っておこなっていただいております。今日は令和6年度の運営状況、7年度の運営計画ということで、ご審議いただきますので皆様の忌憚のないご意見を館の運営に反映させていただきたいと思っておりますのでどうぞよろしく申し上げます。

事務局（梅原生涯学習課長）

ありがとうございました。次に萬鉄五郎記念美術館平澤館長よりご挨拶申し上げます。

事務局（平澤館長）

萬鉄五郎記念美術館の平澤です。本日はこの寒いなか、三寒四温とはよく言ったもので、温かくなったり寒くなったり、雪が降ったりと、この頃は大変な気候の変動なんですけども、そんな中お集まりいただきましてありがとうございます。ただいま部長の方からも話があったように、当館は、来年度で42年目を迎えます。当然経年劣化がすすみ、施設もリニューアルが急がれるところです。一昨年は、空調の工事を行ったんですけども大阪万博の関係で銅線が入ってこない、ケーブルが入ってこないとい

うことで、昨年6月の末までずれ込み、ようやく何とか、半年遅れで完成運用に入ったという状況です。来年度はLEDの工事で11月末から約3ヶ月間休館というふうになります。施設工事が入ると美術館の運営の方もバタバタで落ち着かない年となるんですけども、そんな中で今年度の企画展は、去年春に東和を中心とした花巻地区の江戸期、藩政期の水墨画、いわゆる南画の系譜。萬鉄五郎に繋がる南画の系譜の展覧会を開催しました。夏には、今までとは毛色が変わった世界的な評価されている映画俳優のオードリー・ヘプバーンの写真展ということで、彼女が映画に関わった写真を展示いたしました。この企画に関しては近隣の県も含めて来館者にはよくぞやってくれたというような普段美術に興味のない人たちでも、ヘプバーンということで興味を持たれ、美術の普及活動の一環として評価を得たところです。秋には、近年、県内で開催されてない浮世絵版画についての系譜や歴史をたどる展覧会を開催。動物というテーマであったのですが、浮世絵の始めから終わりまでと結構な作品数で、来た人たちはこんなに多いのはびっくりしたというような反応も聞かれました。今年やれば、葛屋重三郎の大河ドラマの関係でもっと人が入ったと思うんですけども、ちょっと早すぎるかなという気がします。先日まで開催していた冬の展覧会は、この東和地区は県内でも特異な地域で、美術作家が90年代を中心に多く移り住んできたこの地域の現代美術の特異性を紹介しました。この企画は、開館以来初めてのことで、それも結構なレベルの現代作家たちがいて、平均して県の美術選奨をいただいているような人たちばかり集まってるということでその顕彰を行いました。工事も含め、多彩な展覧会があったわけですが、中でも、今日いらっしゃってる大迫の菊池委員さんが取りまとめて大迫地区で萬鉄五郎のいわゆる出張展示という、普及活動を開催しました。展示作品は本物じゃないレプリカだったんですけども、萬鉄五郎のいわゆる教育普及という面では、新しい企画ということで、今後の普及活動の可能性を開いた企画だったなと思っております。新年度も、LEDの工事もあり落ち着かない運営、館運営になると思いますが、委員の皆さんにはご審議のほどよろしくお願いいたしたいと思っております。

事務局（梅原生涯学習課長）

ありがとうございました。それでは議事に入ります前に、会議公開について確認をしたいと思っております。花巻市審議会等の会議の公開に関する指針に基づき、本会議を公開することとしてよろしいか伺います。会議終了後に、本会議の議事録および資料が市のホームページにて公開されることとなりますが、公開するということがよろしいでしょうか。

異議なしの声

ありがとうございます。それでは異議なしということで公開することにいたします。それでは議事に入らせていただきます。この後の議事の進行は萬鉄五郎記念美術館管理運営規則第8条第2項および第3項の規定により門馬会長職務代理に議長をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

門馬優子 委員長職務代理

門馬です。今回に限り、会長さんの代理ということで務めさせていただきます。会長さんもお元気になられて一見全然わからないようではございますけれども、今回は代理の私ということですので、皆様ご協力のほどよろしくお願いいたします。それでは早速でございますが、議事に入ります。報告事項令和6年度萬鉄五郎記念美術館の運営状況について事務局からご説明お願いいたします。

—事務局説明—

門馬優子 委員長職務代理

ありがとうございました。只今、事務局から説明がございましたが、皆様の方からご意見、ご質問等ありましたらお願いいたします。

菊池忠久 委員

菊池と申します。先ほど報告の中で12ページの追加資料として、私は大迫地区コミュニティ振興会の会長やっております。

それで地域の人たちに、芸術品を身近に触れる機会を作っていこうという考えまして、るんぴにい美術館さんとか、それからこちらの萬鉄五郎さんの方ですね、何とか作品を貸していただけないかと話を去年、一昨年ですか、2回やりまして、快く貸していただいて本当にありがとうございます。今回、共同事業みたいな形で資料に載せてもらって非常にありがたいと思っています。実際に1回目のときはですね、萬鉄五郎展、5月にやるのと間に合わなくてやったんですね。去年は。今年の4月から鉄五郎の「撮られた萬鉄五郎展」というのがありますけれども、そういう形でこちらの開館に合わせた形で、うちの地区の方でも萬鉄五郎のポスターを貼りながら、作品紹介していけば何とかこちらの方もね、PRになるかなと思って始めたわけです。こういう

形をですね、広げていただいて、そしてこれが他の地区のコミュニティのギャラリーとか、そういうところにも飾っていただければ本当に萬鉄五郎が身近に感じて、美術館に足を運ぶ人も増えるんじゃないかなと思っています。そうなれば良いと思っていますので、どうぞこれからも協力よろしくをお願いいたします。今年も大迫で5月に日本ワインフェスティバルがあります。2日間で4000人を見込んでいます。ですから、大迫活性化センターの駐車場がメイン会場になる為、約三、四千人きますので、センター内に展示したいなと思っていましたので、今年度もどうぞよろしくご協力いただきたいと思ひます。ありがとうございます。

門馬優子 委員長職務代理

ありがとうございました。他にございませんか。

ないようですので委員さん皆様からお1人ずつ、一言ずつご意見なりご感想なりをお願いいたしたいと思ひます。

それでは、斎藤委員さんからどうぞ

斎藤純 委員

東和モンパルナスが面白かったと思ひていました。

萬美術館の「東和モンパルナス展」がもとになっているろんな形に波及して、広がっていくのはいいなと思ひました。

門馬優子 委員長職務代理

はい、ありがとうございます。

菅沼さん。お願いいたします。

菅沼緑 委員

私も「東和モンパルナス」の展覧会に私の作品を出させていただきましたけれども、改めて見ると、こんなにたくさん多くの作家が関係していたんだっていうことに改め

で驚きましたが、そういう流れが、流れというか動きがさらに定着して、本当に、この東和町というところがこの美術館を核にして、もっと盛り上がればいいなど。いや今でも盛り上がってはいるんだと思うけれども、さらに充実するような形になっていくといいなと私自身は思っています。

齊藤純 委員

モンパルナス化の先駆けなわけですね。

菅沼緑 委員

私は実は、私が生まれたのは池袋のアトリエ村で生まれた1人です。結構あそこから、私は二世ですけれども、他にもそういう作家がたくさんいまして、それぞれみんな、お互いに交流したりもしてはいますけれども、そういうような形でね、もう、ここからもまた二世が現れたりとかいう形になればさらに、いいだろうなと思います。

門馬優子 委員長職務代理

ありがとうございました。それでは菊池さん、何かもう一言お願いいたします。

菊池忠久 委員

私もこの「東和モンパルナス」拝見して、こんなたくさんの方がいるんだなと非常に興味深く見させていただきました。美術館の方は入場料払って、八丁土蔵の方はおまけで、非常にありがたい。来た人はおそらくそう思うと思います。この八丁土蔵の方だけ、毎回見てないものがあるんです。それで私、前も提案しましたが八丁土蔵でやったやつを、本館の方でまとめてレポートみたいな形に、例えば1年前でも2年前のまとめた形で見せてもらえると非常にいいんじゃないかなと。八丁土蔵で無料でやりますから、本館のほうで無料でこれだけのものを、やってもらえれば、かなり入館者も増えるんじゃないかなと思ってます。ご検討よろしく申し上げます。

門馬優子 委員長職務代理

はい、ありがとうございました。館の方でご検討をお願いいたします。牧野委員お願いいたします。

牧野幹 委員

去年、館長講座は一回だけしか参加できませんでしたが、参加してお話を直接、館長さんから伺うことができました。それで何が良かったかは、浮世絵展と重なった形での館長講話が丁度タイムリーだったと思いました。去年もこの席でギャラリートークができないかもというお話を伺って、ぜひとも何かそれに代わるようなことで、関心が高まるようなものがあればいいと思ってましたが、まさしくタイムリーですごくお話を伺って、今年でなくて残念だと館長さんは、おっしゃいましたけれども、何か今年を先取りしているような形で、すごく得したなっていう思いをいたしました。ですから、ギャラリートークでお話を聞くこともすごく楽しみです。館長講座の方でも、いろいろお話を伺うことを楽しみにしております。

門馬優子 委員長職務代理

ありがとうございました。館長さんよろしくをお願いいたします。菊池委員さんどうぞお願いいたします。

菊池房江 委員

東和町ってとても温かくて、元々本当に萬鉄五郎美術館を核として地域の方たちがものすごく美術館に対しての思いもあり、土沢クラフトアートとみたいな感じのものも本当に9万人、10万人近い人集めているいろんな人たちに芸術や文化の力を伝える力ってすごく大きいと思うんです。これからも本当にこういう、「東和モンパルナス」のような地域の方たちをいろんな形で全国に発信していくこと。そしてまた、その人たちを見てすごく大事に思っている地域の方たちのその思いもいい形で、いろんな様々なイベントと絡めて集客をしながら、地域の方たちのいろんな思いも伝えていく活動に上手にこの流れを作っていただけたらと本当に思います。何かここに入ってくると皆さん東和町って温かい街ですねっていう言葉が出てくるんです。それがやっぱり地域の人たちの思いや、芸術や文化を伝えるその大きな力になっているんじゃないかと、いつも感じていますので、ぜひこの地域の方たちでも、鉄人会も含めた連携、土沢アー

トクラフト実行委員会の方たちでもいろんな形で繋がって行って、このそれぞれの展覧会ももちろん素晴らしい企画がたくさん。萬鉄五郎記念美術館で持っていらっしゃる力っていうのは本当に私達も毎回毎回この企画を見せていただきながら、すごく感動しているところですが、そういうことも大事にさせていただけたら、なお、ありがたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

門馬優子 委員長職務代理

ありがとうございました。杉本委員さんお願いいたします。

杉本吉武 委員

世界中はいろいろカオス化して、何が何だかわからない世界になってますが美術だけはもう本物思考で揺るがないっていうか、そういう時代に入っています。先ほどから「東和モンパルナス」。確かに、街歩けば美術に詳しいというか作家に出会うっていう街は、そうないです。盛岡三大麺も、外人含めてかなりの集客を見せていますけど、東和町でやっぱり誇っているのはやっぱりアートの街になってることは、全国でもそうそうないと思います。何か一つあると思うんですけど、全般にアートに詳しく、好きだっていうのはやっぱりここに美術館があるっていうこと。アンケートでも全国から観光客が来てますから、こういう町で中央でも見られない企画が見れたというようなアンケートもありますが、なかなかこれは出来そうのでできない。それなりの館の取り組みというか、レベルが高いことを示している。誇っていいと思います。やっぱり40年ぐらいの歴史というか、これは本当に代々の館長がそういう情熱というか、そちらに詳しい方もいたし、行動力もあつたし、今後も活動を続けて行ってほしいと思います。あと、図録ですが、こういう展覧会を大事に後世に残してく図録発行というのは、なかなか小さい大きいに関わらず、売り物というか、中央から来たものはセットできますから、図録がついてくる場合がありますけど、自分たちで編集発行してることは、本当にこれは後世に伝える文化財だと思ってます。本当に貴重な活動をしてると思います。県内の美術館というのは、県立美術館と石神美術館とここしか、まずないです。大きいところ。その中でもやっぱり差別化の問題というか、今流行りのそれも萬の特色ね。先ほども出た、ヘプバーンとかね、確かに県美なんかではちょっとできない、やればやれるかもしれませんが、見過ごすというか通過してしまう。それに目をつけて映画ファンだったら、必ずオードリーファンは知ってますし、また青春を

思い起こすというか、そういう面で、すごくいい企画だというのは言ってますね。そういう小回りの利く、それでいて光るものというか、探せばもっとあると思いますから、そんな企画を期待しております。以上です。

門馬優子 委員長職務代理

ありがとうございました。では小笠原委員さんお願いします。

小笠原卓雄 委員

昨年は大きな企画の四つありまして大変楽しく拝見しました。

特に浮世絵のあの動物のシリーズのところでは、浮世絵の歴史みたいなのも一緒に込めることができ面白かったと思います。初期の頃はモノクロームにちょっと赤い色が入った程度の浮世絵がだんだん色が増えていって濃密になって、そして明治期になるとまたちょっと二極化して、ちょっと浅い感じになっていくというそういう流れがよくわかって面白かったと思います。特に中期の国貞あたりの多色刷りは、大体15版くらい使ってるのかと思って色を数えてみたりしてですね、そういう楽しみ方もできたと思います。それからオードリーの写真の展覧会はあれはあれでまたちょっと毛色の変わっているというか楽しみが一つに増えたという感じがいたしました。それからモンパルナスの方もこんなにたくさんの方がいたということでみんなレベルが面白いところに行っていて、良い着眼点だったと思います。あと南画の系譜の方も、随分これは詳しく調べたなという感じで感心しました。いずれこの四つの大きな企画展、企画も大変だったろうなと思いますがとてもいい企画だったと思って、もう拍手をしたいと思っております。来年というか次年度も同じように面白いのを見せていただきたいと思っております。それから、八丁土蔵の方は現代美術に特化したような形の展示ですけども、やはり萬は先進性のあるあの画家でしたのでその精神を継続というか、繋げてということで行くと、現代モノで少しずつ発表の機会を持たせてもらえるというのは大変嬉しいことでありますし、これからも現代モノをどんどん取り上げていっていただければ、次の世代の人たちがこういうものか。ということを理解しやすいのではないかと思います。いずれ企画はとても大変だったと思っておりますけれども、本当に楽しませていただきました。次年度もよろしく楽しませてください。

門馬優子 委員長職務代理

ありがとうございました。私も一言、言わせていただきます

どの企画も本当に限られた職員の方たちで素晴らしい企画をなされたと思いますし、それぞれの特徴を生かした展示方法ですね。ほんとによその館、よその館って、あんまり知らないですけども、素晴らしい展示の仕方がすごい細部にわたって工夫されているなど、いつも感心しております。本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

他にございませんか。ご意見とか感想とかないようですので、これで終結いたします。

続きまして、「諮問事項、令和7年度、萬鉄五郎記念美術館運営計画について」を議題といたします。事務局からご説明をお願いいたします。

—事務局説明—

門馬優子 委員長職務代理

ありがとうございました。ただいま事務局から説明がございましたが、皆様の方からご意見ご質問がございましたらお願いいたします。はい、斎藤委員さん。

斎藤純 委員

まず先に感想なんですけれども、大川美術館展は非常に楽しみです。最初に行ったのは30年くらい前なんですけれども、川崎からオートバイで行って、「盛岡から来た」って話をしたら、図録を買うときにあの方、あの女性は奥さんなのかな。受付にいた方が「あら、ちょっと待ってて」って言ってその図録を奥に持って行って、戻ってきたら大川栄二氏のサインが入っていたので必要でしたら貸しますので、資料展示で。ここあれですか。改築ですか？それで？

事務局（平澤館長）

一般的な貸し出しです。

斎藤純 委員

貸し出しもやれるくらい持っているんですね。そうですか、そうですか。あと、「杉本みゆき展」も非常に楽しみです。僕、特別に描いてもらった作品があつて。今、抽象しか描いてないのに、具象で人物が4人も入っている作品がありますので。必要でしたら、お貸しします。貸し出し料は負けますので。何かありますか？

門馬優子 委員長職務代理

では続けて菅沼委員さんお願いします。

菅沼緑 委員

毎回私思うのですけれども、萬鉄五郎っていう人が当時の最先端を走り抜けた人ということで、それをもうそれを顕彰することなんだけれども。現在のやっぱりいま、今における最先端の芸術というものも、もう少し取り上げてもらえるといいなと思います。いつもそう思います。なかなかそういう展覧会っていうのは、入場者を期待することが難しいかと思えますけれども、美術の文化のあり方みたいなことをやっぱり、広く知ってもらうこともすごく重要じゃないかなと思うのですけれども。私なんかは東京で良い展覧会があると、やっぱり新幹線に乗って見に行ったりもしますけれども。逆に、東京から新幹線に乗って、土沢まで展覧会を見に来る。来なくなるような、そういう展覧会もぜひ期待したいと思います。

門馬優子 委員長職務代理

どうぞ続けてお願いいたします。

菊池忠久 委員

この計画については、特に意義はございません。ただ今後のですね、希望という形と

すれば、今年度「萬鉄五郎と土沢 南画の系譜」を見させていただいて、鉄五郎さんが菊地素香に水墨画を習って、その素香さんは橋本雪蕉から習ったという同じ時代に大迫の出身の平澤屏山という絵師さんがいるんです。実はこの人の作品見たいと私は思うんです。おそらく素人じゃありません。同じ年代に受けたので、やっぱりこの絵師という形の中で菊地素香なりその辺を、大迫にいた平澤屏山さんが影響を受けたんじゃないかと個人的に思っている。プロの館長から聞きたいんですけど、この地区に関係ある平澤屏山のようなものを美術館の方で展示できる機会があればいいなと思っていました。考えていただければ嬉しいです。ご意見として捉えていただければいいです。

門馬優子 委員長職務代理

はい、ありがとうございました。

事務局（平澤館長）

一応、博物館で企画しているみたいですよ。

菊池忠久 委員

そうなんですか。

事務局（平澤館長）

花巻市博物館で。再来年あたり、もしかすると、計画している可能性。うちでやるのもいいんですけどもね。

門馬優子 委員長職務代理

よろしいですか。はい。それでは、牧野委員さん。

牧野幹 委員

来年度も子供をたちに向けた企画を計画してくださって、それは本当に大歓迎です。たくさんの親子に足を運んでほしいなと思います。ちょうど期間とすれば、夏休みの期間なので、そういうことも多くなるかと思うのですが、ちょっと一つ質問は、入館料の中に括弧して書いてあるのは、これは団体としての入館料ということになりますか。

事務局（高橋主事）

そうです。すいません。こちらは書いていませんでしたけれども、括弧内は20名以上の団体の料金になっています。

牧野幹 委員

はい。そしたら安心しました。ぜひとも子供会とか、そういった夏休みの行事の一つとして捉えていただいて、足を運んでいただきたいなって。そういうためのPRとかもぜひ教育委員会とか通じて、積極的に行っていただきたいと要望したいです。

門馬優子 委員長職務代理

ありがとうございました。菊池委員さんお願いします。

菊池房江 委員

ちょうどその話が出たので、まなびキャンパスカードっていうのを持ってらっしゃるんですよね。それで、やっぱり夏休みにこの企画としていいものが出ているので、各学校の花巻市内いろんなところはもちろん遠くもそうなんですけど、花巻市内の学校関係にそういうキャンパスカードと、こういうせっかく「かいけつゾロリの大冒険」みたいな展覧会の趣旨のものを一緒にお配りしながら、PRしていただくのがすごくいいんじゃないかと思っていました。それからもう一つ、花巻市が、特別によそにない企画として、実は花巻の文化会館が、小学校中学校高校全部の学校の生徒さんに必ず鑑賞の機会を、様々な企画を演劇であったり音楽であったり、要は全てのジャンルにわたって、年齢にふさわしい企画を持ってきて、それを鑑賞させているのが、ずっともう何年、かなり何十年続いているんですよ。これは本当に花巻市の財産だと思って

います。だからこれに繋がった例えば萬鉄五郎記念美術館も例えば、各学校の絵画関係の芸術関係のものには多分時間を割けるものはないでしょうけど、研修授業みたいながあると思うので。だからそういうものに上手に企画を組み入れてもらって、各小中高も含めてできるかどうかですが、生徒さんたちに小さいうちから、芸術や文化に触れることをすごく大事にしている花巻市なので、さらに合併して一緒のオール花巻。本当にこの萬鉄五郎記念美術館も花巻の大事なだいな美術館としてのこれから存在意義があるところなので。そこを上手に、ちょうど生涯学習課の部長さん課長さんもおいでなので、ぜひ各学校に呼びかけていただき、そしてまなびキャンパスカードもあるっていうことがすごく大事だと思って、こういうものに親子で来て見ていただいて、家庭の中での対話、話題性がある、「これからも一緒に見に行こうね」とか、「小さいときからこういうものを見せてあげたいな」と親と一緒に子供さんたちと鑑賞する機会があれば、もう少し幅が増えて、他のたくさんの良い企画もあるので、1回足を運び始めると、もっと、もっと何かあるかなって期待感やわくわく感があって足を運ぶ人が増えてくると思うので、ぜひ学校に呼びかけていただく機会を増やしていただけたらと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

門馬優子 委員長職務代理

ありがとうございました。よろしくお願いいたします。

事務局（平澤館長）

今のことについて。

門馬優子 委員長職務代理

では、館長さんのほうから。

事務局（平澤館長）

貴重なご意見ありがとうございます。この学校関係で、来館して、鑑賞教育ということでやっていただくことは推進していきたいと思います。それに加えて、各市内のいわゆる地域自治会の公民館活動とか、社会教育活動ということで、地域の人たちが教

育的な意味合いで、団体として、地域活動でも美術館の見学利用してほしいと思っています。申請書を出せば、無料で入れますので。積極的に、地域の女性部会等での利用を推進していきたいなと思っています。

門馬優子 委員長職務代理

はい、ありがとうございました。杉本委員さんお願いいたします。

杉本吉武 委員

来期も萬らしい企画が続出して、第一期というか、萬の写真展ですね。全国のファンでも見る機会というのは、なかなかないと思いますから。これも萬ばかりじゃなく、写真を撮っていたっていうのは、また知らない人も多んじゃないかと。良い企画っていうか、その時代感がまた写真で捉えているということを新発見する企画だと思います。それと夏の「かいけつゾロリ」。ものすごい今ね、漫画のブームでかなり入館者増えると思います。なかなかこういう企画というのは、かなり大掛かりになるということで、またこういう企画されているというのは、県内でも盛岡でも夏休み中の親子で来館できるいい企画だと思っています。あと、「大川美術館コレクション」。私も昔、結局行けないでいましたけど、大川美術館は本当にそんな大きい作品じゃなくても、粒ぞろいの作品。今、最初の竣介なんかのコレクションで、有名になった人です。知っている人は知っている世界で、凄く良い作品を持っているんですよ。もうかなりのコレクション。あれから40年ぐらい経ったんですが、そういうのも、エコール・ド・パリの作家も多分、大変な作品ですね。多分小さいと思うけど、なかなか良いものがありそうな気がします。これが萬で見られるというのは本当に大変なことです。よくここまで企画に入れたと思います。そして、田中淳さんの講演会、期待したいと思います。以上です。

門馬優子 委員長職務代理

はい、ありがとうございました。小笠原委員さんお願いします

小笠原卓雄 委員

また来年も大変面白い企画が提示されまして、大変楽しみにしています。萬と写真については先ほど杉本さんがおっしゃった通りです。あと「かいけつゾロリ」はですね。これは個人的に随分思い出があつて。というのは私事ですが、私の長男がちょうど子供の頃に読んだというか、楽しんだというか、一緒になって笑い転げた「かいけつゾロリ」ですので、ちょうどそれも40歳くらいになっていますから、そうするとその子供もまたそれを受け止めるのかなという、そんな楽しみがあります。それから、大川美術館の作品ですけれども、やっぱり現代の入門編としては大変良い企画だなという感じがいたします。あと、今後もしこういうことになったらいいな、という一つ感想というか、述べたいと思いますが。現代の美術は大変二極化していて、すごく最先端のものもいっぱいあるわけですし、その一方で、非常にアナログ的な超アナログな世界でやっていく人もいるということで、現代の最先端というか、とんでもなく普通の人考えないような技術を持っている人たちのそういう展覧会を実験的にやってもいいんじゃないかと。段々にですね、新たな実験展というような感じの内容で企画ができれば、こんなふうに進んでいるのかという一つの勉強になるような気がいたします。これは今すぐいうことではなく段々にということではぜひやっていただきたいなと思っております。以上です。

門馬優子 委員長職務代理

ありがとうございました。

先ほどから子供たちへの普及活動といたしますか。館長さんからお聞きしたら、すごくいろいろな特典が、特典っていうかね。

事務局（平澤館長）

利用方法ですかね

門馬優子 委員長職務代理

いっぱいあるってことですけど、そういうものどんな周知方法で？

事務局（平澤館長）

あんまり周知方法って。特に公で周知っていうことに力を入れていなかったの。

門馬優子 委員長職務代理

そうすると知らないまま

事務局（平澤館長）

町内だと、以前は区長会議でお知らせしていたのですが、忘れられているというのもあって。計画的に各自治体で積極的に活用してほしいなと思っています。市内のそのような、行政区単位での活用をもっと推進していきたいので、広報を通じてやりたいと思っています。

門馬優子 委員長職務代理

ですね。なかなか浸透しないまま、残念なところなんですけれども。学童とかですね、ああいうところで今言った人数まとまって行動できるような団体がございますので、積極的に働きかけていただきたいと思います。

事務局（平澤館長）

わかりました。

門馬優子 委員長職務代理

はい。

皆さんの方から何か追加して、ご意見ご感想ございませんか。はい、小笠原委員さん。

小笠原卓雄 委員

今、学童という言葉が出てきましたが、最近は各地区に学童もずいぶんできて、

結構利用者も増えております。そういうところに集中というか、ポスターとかチラシとかを送っているのかなとは思いますがこれはどうなんですか。市内の学童にPRというのはどのぐらいやっているのでしょうか？

門馬優子 委員長職務代理

いかがですか。

事務局（高橋主事）

展覧会とかに応じてになりますけれども、例えば夏休みの企画。今回のような子供向けの企画とか、そういった場合は展覧会のターゲットによって送る場所も変えていて、「かいけつゾロリ」ですとか、そういった子ども向けの企画ですと、学童とか小中学校、幼稚園とか、そういったところには積極的に送っています。

小笠原卓雄 委員

ありがとうございました。

門馬優子 委員長職務代理

他にございませんか。それではないようですので、これを終結いたします。

これをもちまして、議長の務めを終わらせていただきます。皆様のご協力ありがとうございました。

事務局（梅原生涯学習課長）

門馬会長職務代理、ありがとうございました。

そのほか、何かございませんか。

牧野幹 委員

一つ要望を言わせていただきたくて。私が美術館を訪れる楽しみの一つに、ミュージアムショップを訪れる楽しみがあります。必ず展覧会とか見た後に必ずそこに立ち寄るんですけども、萬記念館でもそういった楽しみが増えればいいなと常々思っております。いつかの展覧会ときには、学芸員さんのイラストが入ったトートバッグだったでしょうか。あれ結構重宝したんです。それで、この間も行って、まだあるのかなと思ったらもうなくて、トートバッグがありました。ありましたが、「萬鉄五郎記念美術館」というロゴだけ入って、なんの面白味のないトートバッグだったんです。全然ときめきませんでした。せっかくいろいろな資源があるので、それをうまく活用してショップにも立ち寄って、いっぱい購入したくなるような、そういった企画をやっただけならいいなと思います。ちなみに、この間行った時は、このファイルを買いましたけれども、ファイルの種類が2種類ぐらいしかなかったので、もっと増えればいいなっていうのも、そのとき思いました。すいません。なんか、変なこと言いました。よろしくお願ひします。

事務局（平澤館長）

確かに一般の人たちが一番美術と真剣に向き合うのが、ミュージアムショップなんですよね。50円であろうが100円であろうが、自分の財布から身銭を切るときには、どれがいいかって真剣に美術に向き合う場がミュージアムショップであると思っています。その観点からすると美術の普及のための一番の要の場なので、今のご意見、肝に銘じて、今後、充実していきたいと思ひます。ありがとうございました。

菊池忠久 委員

関連してですが、ショップのグッズは、例えばこれを新しく増やそうとした場合、職員さんたちが頼むのか、それとも萬記念館では関連したショップ受け付けますということであれば、地域でいろんなアクセサリを作っている方はいっぱいいる。記念館では関連したグッズではいろんなもの売ってあげますという形であれば、結構集まると思うんです。そういう形にすれば、地域でいろんな小物を作っている方もおりますし、そういう方に例えばロゴを入れればいいとか、「萬記念館」というロゴが入れば良いわけですから。そういうパターンでやるか、でなければ、さっき言ったように、職員が業者さんをお願いして作ってもらうパターン。そうなると、数量からなにかから多く頼まなきゃいけないじゃないですか。余った場合は損失が出るわけですから。そ

れからもし、よければ様々なサークルがあります。七宝焼のサークルもあります。そういう人たちにとって、萬記念館さんでは、そういうグッズを受け入れますということであれば、門戸開いてもらえれば、必ず集まるんじゃないかなと思いますが、その辺のお考えどうなんでしょう。

事務局（平澤館長）

萬美術館とか鉄五郎に関連するグッズだと積極的に取り扱うのが美術館の使命の一つだと思いますけども、いろいろなクラフトとかそういうもののための場として設定したのが春、秋のアートクラフトフェアなんです。美術館として区分けした形で運営しています。一般の人たちも関わって美術市場の場づくりとして、アートクラフトフェアの企画、運営しているので、手作りの手工芸品はクラフトフェアに参加していただきたいと思っております。萬のグッズに関しては、うちの友の会との協働で、資金のいわゆる出し入れの関係は友の会を通じた形でやっています。

菊池忠久 委員

そうですか

事務局（梅原生涯学習課長）

そのほか、ご意見等ございませんでしょうか？よろしいでしょうか？

以上を持ちまして、令和6年度萬鉄五郎記念美術館運営委員会を閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。